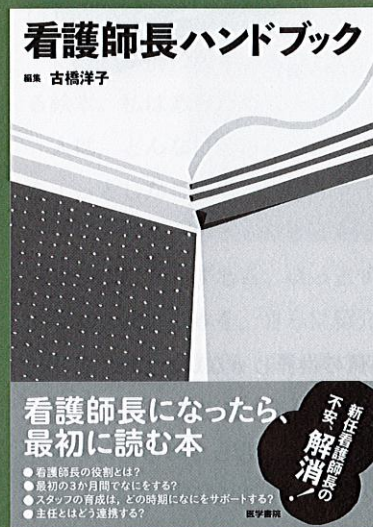


## 書評

## 看護師長ハンドブック



- ◎編集 古橋洋子
- ◎定価 本体 2200 円 + 税
- ◎発行 医学書院

## 看護師長になる人に勧めたい 1 冊

## まだまだ不十分な管理者研修

初めて看護師長になるとき、多くの人は「自分に看護師長が務まるだろうか」「看護師長になって自分は何をすればいいのか」と不安を抱えていることだろう。

近年、どこの医療機関でも看護師教育体制の整備は進んでいるが、看護師長就任までに十分な管理者研修を受けている人はまだまだ少ない。管理者育成まで系統立てて教育する体制が整備された医療機関は、まだ少ないのが実情である。

多くの看護師長は、その役割を理解することも、心構えをする間もなく、自分が管理・運営する部署に配置になったその瞬間から、待たなしに、日々の雑多な問題に追われることになる。

私が初めて看護師長になったときには、考える間もなく日々の問題の対応に追われてしまい、半年、1年経って、はたと「自分は看護師長として何ができていいのか」と思い至った。当時の看護部長には何度も悩みを相談し、その勧めで看護管理の方法を学習したり、日本看護協会が行っていた看護婦長研修（現在の認定看護管理者教育課程ファーストレベル）に参加させていただいた。これらを通して、看護師長としての自己の行動を振り返り、看護師長としてどのように行動すべきだったかを考え、手探りで部署の管理運営方法を見出していったことをよく覚えている。

どの時期に何を行えばよいか  
具体的にわかる

本書には、看護師長になった初日から看護師長がスタッフと信頼関係を築いていくための、具体的な行動や心構えが一覧でまとめられている。配置初日からスタッフは新しい看護師長を観察している

こと、だからこそ看護師長の側から笑顔で声をかけることが大切であるとまず書かれていることが印象的である。

どの看護管理者も、これまでの経験をもとに、新任の看護師長としての第一歩を指導してきたと思うが、それが配置直後から段階的に、どのような意図で進めていくべきかが本書に整理されているのである。

配置直後から3か月目までの時期を考慮した行動や、スタッフ管理、看護管理、職場管理に関する事項、スタッフ育成など、年間を通して、また長期的視点で取り組まなければならないポイントなどが細やかにまとめられている。またスタッフ育成についても、新人看護師、中堅看護師、中途採用看護師、主任など対象者別に、どの時期にどう関わるかを具体的に示している。

各章を読んで看護師長に求められる役割を理解し、意識して行動すれば、看護管理者としての第一歩を踏みだしやすくなるだろう。

看護部長の立場で読んでも  
活用できる 1 冊

本書を読んで、自分が初めて看護師長になった 20 年前に手元に欲しかったと心から思った。これから看護師長になる人には、ぜひ本書を看護師長として部署を管理・運営するための一助としていただきたい。

また、看護部長の立場で本書を読むと、看護師長になった当時の自身の戸惑いや手探りで管理方法を工夫してきた苦労が思い出される。後進の看護師長が最初の1年間を戸惑い少なく管理・運営できるように、本書を基に自施設の看護管理マニュアルを見直し、整備したいと考えている。

評者

医療法人平和会平和病院  
副院長・看護部長・医療部副部長  
認定看護管理者  
原 久美